

- 1 学校の教育目標『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子を育てる』
- 2 経営の基本方針 グランドデザイン「チーム北吉井」→子どもの成長・安全・安心を中核に
- (1) 元気な子を育てるために(自律) (2)一生けんめいな子を育てるために(勤勉) (3) やさしい子を育てるために(協力)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価（１～４）			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員会の評価
			教職員	障	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さなトラブルを見過ごさず、受容的な態度で児童に対応することを基本として、組織的に課題の解決に努めている。	3.0	3.6	3.4	○ 生徒指導部会やケース会議の流れを明確にし、校内支援体制を整えたことで全教職員が児童の実態を把握し、共通理解のもと支援に当たることができた。 ○ 医療機関とも連携し、愛媛大学の医師を招いて、配慮を要する児童への対応の仕方について考える研修会を実施するなど、教員の指導力の向上に努めた。 ● 挨拶は、なかよし委員会が挨拶運動や賞状の作成をするなど工夫したが、個人差が大きい。引き続き児童の主体的な活動の場を工夫し、活性化を図る。	○ <u>生徒指導</u> ・ 挨拶は、個人差はあるが、全体的に冬場は元気がない。児童の方から、先に挨拶ができるようになるとうい。挨拶の活性化に向け、児童の主体的な取組がなされている点がすばらしい。
	基本的生活習慣の定着	元気な声での挨拶や返事の定着を図っている。	2.6	3.4	3.1		
	児童理解の促進	一人一人の児童を細かく観察するとともに、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談やケース会議等で対応に生かしている。	3.1	3.4	3.1		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番（ほめる種）がある学習や活動の場を工夫し、みんなの学習クラブのプリント等を活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.0	3.5	3.1	○ 授業では、ペア学習やグループ学習を取り入れるなど学習形態を工夫することで一人一人の活躍の場を保障した。 ○ 学習プリントの活用やミニテストなど基礎・基本の定着に力を入れ、振り返りの時間の確保、個別指導の充実などに努めた。 ● 家庭学習に関する肯定率が、児童と教職員・保護者との間にずれがある。自主学習の紹介や称揚等、児童が意欲的に家庭学習に取り組める工夫をする。	○ <u>確かな学力を育てる教育</u> ・ 児童館で子どもたちと関わっているが、宿題の量は適切で、先生方のノート添削も丁寧である。通塾状況を把握した上で、家庭学習の在り方について配慮する必要もある。
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	2.8	3.3	2.9		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えやその理由や根拠を明確にし、学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.0	3.4	3.0		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.1	3.6	3.5	○ 全校で道徳科に焦点を当てて授業研究を行い、外部講師の専門的な指導により研修が深まった。また、道徳振り返りカードでは、家庭との連携も図った。 ○ ころきらり集会に向けての合唱・合奏練習の取組は、仲間と心を一つにして一人一人が活躍するよい場となり、多くの保護者の感動を呼んだ。 ● よりよい生活習慣の啓発に向け、保健集会や生活リズムチェック、睡眠貯金などの取組を行ったことは、「早寝・早起き・朝ご飯」に対する保護者への啓発につながった。しかし、長時間のゲームやテレビ視聴等により、生活習慣が乱れがちな児童もいるため、継続して家庭との連携・啓発に努める。	○ <u>豊かな心、健やかな体を育てる教育</u> ・ 健康な体づくりのために、保健集会の活動や生活リズムチェックなど、年齢に応じた睡眠時間を提示して自己評価をさせたことは、保護者の啓発にもつながっている。
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.1	3.7	3.5		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	2.9	3.5	3.1		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自律心の育成を図っている。	2.8	3.6	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内の支援体制を整備し、巡回相談等の専門家の意見などを参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	3.1	3.2	3.2	○ 巡回相談員や医療機関等、関係諸機関と連携を図り、必要に応じて適切なアドバイスを受けながら、個に応じた指導に当たることができた。	○ <u>安全・安心な教育環境の整備</u> ・ 防災タイムの取組は、様々な災害時に自分の命を守るためにどのような行動をとればよいのかを身に付けさせる上で、大変効果的である。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.0	3.6	3.4	○ 地域や保護者の方々の見守り活動が子どもたちの安全を守ってくれている。また、教職員の登下校指導についても保護者から感謝の声が多く届いている。 ○ 日常的な防災教育として、10月～3月までの間に14回の防災タイムを実施し、自然災害等から「自分の命は自分で守る」という意識の高揚を図った。 ● 不審者情報が多発しており、不安に感じている保護者も多い。2月に行う不審者対応の避難訓練では、外部講師による児童への指導も実施予定である。	
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.0	3.8	3.0		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.2	3.5	3.2		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	3.0	3.2	3.0	○ 各学年、生活科や総合的な学習の時間等で、地域へ出向いての学習や地域人材を招いての学習を積極的に行った。 ● ホームページの積極的な更新に努め、保護者からも好評であった。子どもたちの様子や学校の取組をタイムリーに発信できるよう今後も工夫したい。	○ <u>家庭・地域との連携</u> ・ 次年度からコミュニティースクールが始まるが、学校と地域との双方向の関わりができるよう進めていくとうい。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり学校だよりやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	3.0	3.4	3.3		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動の充実	JRC 活動への主体的な参加を通して、奉仕と協働の精神を培っている。	3.2	3.5	3.1	○ 既存の様々な取組を青少年赤十字活動の側面から捉えなおし、朝のボランティア活動や防災タイム、国際交流活動を積極的に実施することができた。 ● 活動がマンネリ化しないよう、児童のアイデアをもとに工夫を加え、活動を更に活性化させていく。	○ <u>特色ある学校づくり</u> ・ 青少年赤十字活動の一環としての国際交流活動は、様々な体験の場の保障や外国語への興味・関心の向上にもつながる。
施設・設備の充実	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.1	3.7	3.3	○ タブレット端末や電子黒板の導入により、各教科において、児童の調べ学習やデジタル教科書の映像資料の提示などが可能となり、指導が充実した。 ● ICTの活用においては、今後ICT支援員のサポートも受けながら、教員一人一人のスキルアップをしていく必要がある。	
	教育機器の有効活用	大型テレビやパソコンなどの教育機器を、有効活用している。	3.3	3.7	3.0		○ <u>施設・設備の充実</u> ・ ICT 支援員を効果的に活用し、指導に生かしてほしい。